住まいの特集
リフォームに失敗しない方法とは？

住まいを考えることで、ライフスタイルが見えてくる！
暮らしに合った、豊かな住まい術とは…。
これからの快適な住まい方について、住宅リフォームのパイオニア「ベターリビング奈良」の森さんに聞いてみました。

リフォームのコツ

Q　奈良で23年、一番古い住宅リフォーム専門店とうかがいましたが。

森　ええ、開業当初は「リフォーム」ということば自体が目新しく、NHKなどマスコミの取材が殺到しました。でも古いだけではないのですよ（笑）。いままでに施工した家屋は5000軒以上、扱った物件は一万件を超えています。

Q　すごいですね。ところで、リフォームのコツって、あるのですか？

森　まず施工前に2社以上の業者から見積りを取ること。その際、工事内容の細部まで確認を怠らないこと。たとえば風呂場のリフォームでも、チラシ等で浴槽・浴室の部品代だけを（業者が）提示するのと、完成までの諸費・工事費を含めた額を提示するのとでは大きく違ってきます。利用者側は、まず予算と改修希望項目を明らかにし、その範囲でどれだけの回収が可能なのかを比較することですね。

Q　なるほど。チラシの金額だけに目を奪われていてはいけないのですね。そのほかには？

森　家を建てた時点から修繕費用は計上しておくこと。マンションに管理費があるように、戸建住宅にも維持・保全費が必要です。また住宅設備設の〝新陳代謝〟は必要経費と考えること。住設機器は少し高目でも新式のものにしておけば最終的にはお得です。

Q　キッチンや風呂場にも同じことが言えますね。値段だけを考えてあとあとのことを考えないと、すぐまた具合が悪くなり、出費もかさみます。

森　ええ。その意味でいわゆる〝衝動買い〟はイエローカード。納得いくまで検討する位の周到さが必要です。リフォームは、モノだけを買う行為ではありませんから。

Q　といいますと？

森　いい提案を安く買う―。その会社の実績とノウハウ、そしてプランを安く買うのがいちばん賢いやり方です。リフォームは十人十色。プロの意見も取り入れて、その家にいちばん合ったやり方を練り上げていくことが大切ですね。

Q　なるほど…。家は三軒建てなければ気に入ったものが作れないといわれますが、リフォームもじっくりと考え、成功させたいものですね。

介護を通して見えてきたこと

Q　ところで森さんは、早くから介護リフォームに取り込んでおられますね。奈良県で初めてできた「県営福祉パーク」福祉住宅体験館でも業界内で唯一社、モデル住宅の建設に参画されましたね。

森　はい。わが社は平成元年から〝福祉〟をコンセプトにした住宅リフォームの研究を進めていました。その関係で奈良県から依頼を受け、福祉住宅体験館の〝改善モデル住宅〟創設に携わるようになったのです。それからはずっとお手伝いさせてもらっています。この仕事に携わったことで、改めて住まいの豊かさとは何かに気づきました。たとえば、体の不自由な家族のために家の中をバリアフリーにしても、外構部分に段差がなどがの問題があれば、外出は不自由です。内と外が繋がり合ってこそ、快適な須合になると思うのです。また障がい者はただ与えられた部屋の中で〝かごの鳥〟のように生活することを望んでいない。体は不自由でも家族との生活を共有、共感し、外の景色を楽しめるような心の潤いを望んでいる。このようなことを実感しましたね。

Q　それが森さんが提唱される「健康な住まい方」の原点になっているのですね。われわれも、たとえ一坪でも庭があればそこに緑を植え、日々の疲れを癒そうとします。家の中だけでなく、それに接する外構部分も、暮らしに大きな役割を果たしているのですね。

森　ええ。リフォームも点ではなく線、箱ではなく環境で考えてほしいですね。家族みんなが安心して暮らせる終の棲家を目指していけば、いいリフォームができるのではないでしょうか。

Q　今日はいろいろありがとうございました。

（文頁　内田）

― プロフィール ―

森　恒夫（もり　つねお）

1947年生まれ。株式会社「ベターリビング奈良」代表取締役社長。住宅リフォームを、外構や庭造りを含めた住環境でとらえるという先進的な姿勢で取り組んでいる。ATCエイジレスセンター講師など、介護リフォームに関する講演活動も精力的に行っている。